



K.R.ラビンドラン RI会長テーマ
「世界へのプレゼントになるう」
2820地区テーマ
「初心にかえり 新たなる一歩を」
大洗RC会長のテーマ
「仲間を大切にしよう」

ROTARY INTERNATIONAL
大洗
OARAI ROTARY CLUB

2015~2016年度
会長 川崎 貢
幹事 飛田 幸男

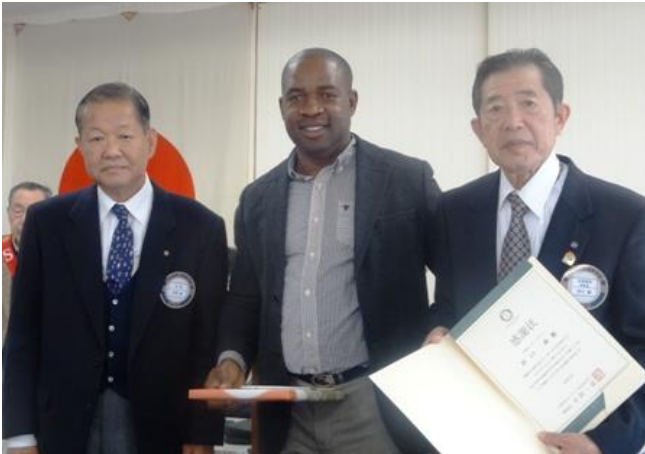


前々回の例会報告

第2079回例会 3月17日(木)

於・例会場 PM12:30~

- 点鐘 川崎会長
- 国歌斉唱
- ロータリーソング「我らの生業」斉唱
- ニコニコBOX 山崎委員長
- ・大網会員 「今日から春のお彼岸です。“愚痴言わず”すべてに感謝 彼岸かな”
- 米山奨学金授与
- 米山カウンセラー感謝状ならびに奨学生に記念品授与



○会長の時間

先月ご逝去された小沼会員より浄財寄付をいただきました。感謝いたします。

○出席報告

海老澤委員長

日付	出席	欠席	メイク	出席率	天気
3月10日	26	6	2	93.33%	晴
3月17日	22	10	2	77.42%	晴

○幹事報告

飛田幹事

- ・幹事メモの報告

○米山記念奨学生卓話

ウボチ・ソロモン・ウボチさん

ご心配とご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。最近私におきた諸問題についてご報告したいと思います。ひとつ

は、フォーマル・レジストレーションが完成したことです。二つ目は、私の研究における情報と資料集めができなかったことです。この理由として私が滞っていたナイジェリアの治安と情勢が悪く、とても研究を進められる状況ではありませんでした。かなり暴動が起こっていたため、警官によって関係者以外は立ち入り禁止とされてしまいました。今年中には再び研究のため帰国する予定です。また、日本に入国する際も食品などでトラブルが生じ、手間がかかってしまいました。三つ目に日本に来た際に携帯電話でトラブルがありましたが、それは17日に解決する予定です。最後に、筑波大学のログインIDが消失してしまったため、新しいものを受け取るのに時間がかかってしまいました。このためインターネットなどが使えず作業に多大な遅れが生じてしまいました。このような諸問題がおきてしまったことについて申し訳ないと思っています。御聴取ありがとうございました。これからもよろしくをお願いします。



私の名前はウボチ・ソロモンです。出身はナイジェリアです。筑波大学人文社会研究科の大学院に在籍しています。日本で受けた教育が私の人生にどのような影響を与えたかについて述べたいと思います。その前に、私に機会を与えてくださった文科省の方々、あたたかく手を差し伸べてくださった日本の皆さん、とくに米山記念奨学会の皆様、本当にありがとうございました。私は文科省の奨学生として2010年の8月に筑波大学のG30プログラムに入学しました。日本について最初の日からオリエンテーションや行事を通して学生や先生が温かく迎えてくださったことをよく覚えています。大震災のときに自分の同寮の友人がお祖父さんを津波で亡くしたことを聞き悲しみました。しかしそれ以外は良い思い出ばかりで、

さまざまな遊び場や行事を体験したことと同時に多くの友人ができました。私は小さいころから日本に憧れていました。なぜなら日本の技術力は世界中で有名ですし、日本の大学は研究に力を入れているからです。日本の大学では、学生に論文を発表し、国内外の会議に参加することを奨励しています。これも課題やレポート提出、試験に終われる海外の大学と違うと思います。日本語クラスに参加して、日本の伝統について書かれた多くの本を読みました。神道について書かれた本を読んだこともあります。日本での体験すべてを私の記憶の中にずっと留めておきたいと思います。大学の中での生活は簡単でしたが、大学外の生活で若干困難が生じたこともありました。しかし、日本の社会の“助け合い”の気質は、我々外国人留学生にとってありがたいものでした。日本人の丁寧な対応には幾度も驚かされました。このような機会を与えてくださった日本政府、米山記念奨学会、そして日本の社会にたいへん感謝しています。すばらしい時間を日本で過ごせたこと、いろいろな才能を磨くことができたことをとてもうれしく思っています。日本は私にとって第2の故郷です。

前回の例会報告

第2080回例会3月24日(木)

於・仏性寺 PM12:30~木戸房池 PM13:10~

国指定重要文化財仏性寺八角堂見学 木戸房池現況視察

○幹事報告

・幹事メモの報告

飛田幹事

○国指定重要文化財 仏性寺本堂について 山田(純)会員



所在地 茨城県水戸市栗崎町 1985 番地

指定年月日 昭和 62 年 11 月 13 日

由緒

仏性寺は天台宗涌石山大日院と号する。本尊は大日如来。藩政時代天台宗水戸 10ヶ寺の1つであった。天長年間(824~834)比叡山第二祖、滋覚大師の開山で当時勅願所繪旨をうける。寛文3年(1663)の水戸藩の社寺開基長には開基不詳、高11石余、門徒9ヶ寺、百姓旦那160人とあり、貞和5年(1349)比叡山坂本から山王を勧請、本尊大日如来座像および三十仏(県指定文化財)は文安5年(1418)の鑄造、かつては巨刹であったが、貞和5年より寛文3年の間に4度の火災にあい、伽藍・寺宝を烏有に帰したが、そのつど、復興に努め今日におよぶ。山内には、元禄7年(1694)建立の石造り金剛力士像2体があり、また天明9年銘のききん供養六地藏尊(ともに水戸市指定文化財)がある。

構造および形式ならびに床面積、高さ、その他

木造、八面、八角宝形造。八注茅葺。現在茅屋根。堂外陣と内陣をそれぞれ8本の円柱で組んでいる。外陣8本の円柱、天辺部(粽)に反花風の加工がある。また内部の間斗束に素朴な植物の彫刻が数種あり、木鼻は室町時代様式を思わせる彫刻である。このような形式の八角堂は県下はもちろん東日

本にも類例のないものである。床面積 55.76m²。高さ約 10m 余。

建築時代

建物の梁にある墨書に天正 11 年・13 年(1583・1585)の年号が確認され、同時代の人名、立原伊夏守政幹の署名・花押がある。当時、実在した人物であることが他史料(立原氏系譜)でも明らかであり、これによって安土桃山時代の建築と考えられる。



○木戸房池周辺野鳥のサンクチュアリ

~野鳥は環境のパロメータ~

飛田会員

水戸市栗崎町の木戸房池は、昔から町民にとって生活に密着した場所として知られています。<木戸房池は、昔からカップの棲処(すみか)である。>(「常澄の伝説とむかし話」という伝説や農業用水池としても親しまれてきました。

「里山」という言葉は、江戸時代、林業に関する記録文章から出ているようです。その里山は、薪燃料や落葉、山菜、キノコ、木材などを得るために、人が管理する人里近くの雑木林や植林地の事を指します。2010年のCOP10(生物多様性条約第10回締約国際会)は、生物多様性を保全する基本的な枠組みとして、我が国の里山文化を取り上げ、SATOYAMAが中心的な話題となったようです。

<木戸房池の管理例>

健全な里山生態系の復元と維持管理策

- 1 生態系の復元…池の除草、外来動植物の駆除、雑木林やスギ植林地の間伐
- 2 水路の落葉の除去
- 3 在来水生植物の復元…ミクリ、マコモ、ヨシなど
- 4 在来水生生物の復元…ニホンメダカ、アカハライモリ、タナゴ、淡水性二枚貝など
- 5 野鳥を指標とする生物多様性の復元・・・周辺に、野鳥のエサとなる実のなる木を植えることで、野鳥を呼び込む。

例：ハンノキ、ムラサキシキブ、カキ、エノキ、ピラカンサ、ガマズミ、ヤマボウシなど



【今月は母子の健康月間です】